



束芋 [HOUSE 08] 2008年
©Tabaimo / Courtesy of Gallery Koyanagi

成熟した国、幼稚な国 @Stockholm

京 都の劇団「WANDERING PARTY」の演劇『饒舌な秘密』の中に、主人公が物心ついたころ、お父さんが0歳で生まれてくるというおもしろい設定があった。そのお父さんは12歳までしか成長しない。お父さんにあれやこれやと言われる主人公がおかしいのだが、作・演出のあこうさとし氏に聞くと、

この設定は「日本人は12歳」と言ったというマッカーサーの言葉に由来することだった。

次の日、私は個展の設営のためスウェーデンに旅立った。同国には過去に3度訪れており、そのたびに日本との違いに驚かされる。北欧全般に言えることだが、教育、福祉がとても充実しており、課せられる税金は非

常に高い。その高い税率に納得できるだけ教育や福祉が充実しているということなのだ。

今回は個展への出品点数が多かったことから現場に到着するまでは不安が拭えなかったが、準備期間中のやり取りのときから、今までに経験したことがないほどのやりやすさを感じ、あの意味、怖いほどスムーズに開

催にいたった。キュレーターもスタッフも、広報、館長にいたるまで、すべての人が高いレベルで展覧会の成功に向けて仕事をしているのだ。

私が思っていた以上の仕事をすると人々を見て、何か決定的な違いを感じてしまった。それは、国自体が成熟しているということ。個人の素晴らしい仕事ぶりは、個人の素晴らしい考え方に由来する。その背景には、国の形が少なからず影響している。そう感じたのは、彼らの大人な仕事ぶりの対照的なサンプルとして、私自身が存在したからだ。

彼らに比べて私の考え方がとても幼稚だということに気づく。私は自身を良識のある普通の日本人として認識している。その良識のレベルが、スウェーデンの良識レベルに比べ非常に低いことを実感してしまったのだ。

め、家で休養するしかない。彼女の代わりを館長を含めた美術館スタッフが皆で分担する。「彼女がいなくてもできる」というのではなく「彼女の思いを皆がしっかりと把握し実現できる」という大きなパワーを感じた。

オープンニングの日にキュレーターが風邪でダウンするというハプニングがあった。彼女は妊娠していて風邪薬を飲めない

彼らが責任を持って変えた」という意識が強く、受けとめるためのスキルも高まっていく。

一方で、スウェーデンは成熟しきってしまつて、これ以上の成熟はない、という少し寂しい意見もあるそうだ。日本はまだまだ12歳、この先の人生は前途洋々!? ●